

東通原子力発電所温排水影響調査

(海洋生物調査：イカナゴ)

(要約)

伊藤欣吾

目 的

東北電力東通原子力発電所の温排水が、周辺海域の主要魚種であるイカナゴに与える影響を把握する。

材料と方法

1. 漁獲動向調査

白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合のイカナゴ漁獲量を調べた。

2. 標本船調査

平成 22 年 4 月～6 月に白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合所属の 8 隻で光力利用敷網漁業の標本船調査を実施し、漁場を 10 海域に分けて解析した。

3. 仔魚分布調査

平成 22 年 2 月～4 月毎月 1 回、白糠・泊地区周辺海域の 10 地点において、試験船開運丸によるボンゴネット往復傾斜曳を行い、仔魚の分布密度を調査した。

結 果

1. 漁獲動向調査

平成 22 年の両漁協のイカナゴ漁獲量は 17 トンで、昭和 56 年～平成 21 年の平均漁獲量の 6.8% であった。

2. 標本船調査

平成 22 年のイカナゴ漁場は、区分した 10 海域のうち小田野沢海域で最も漁獲量が多かった。

3. 仔魚分布調査

平成 22 年のイカナゴ仔魚分布密度は平均 6 個体/100m³で、平成 21 年の 7 個体/100m³と同等の値であった。